

静岡県の 新型コロナウイルス性肺炎 中等症Ⅱ以上入院患者の状況

(第7報;2023年10月30日～2024年5月5日、207例)



静岡県健康福祉部 感染症対策課

静岡県 新型コロナウイルス性肺炎 中等症Ⅱ以上入院患者の調査

- 【背景】 2023年5月8日以降、新型コロナウイルス感染症が五類感染症となり、**新型コロナウイルス感染中の死亡者の迅速な確認が困難**になり、その年代や基礎疾患、主要死因等も把握ができなくなった。
一方で、新型コロナウイルスは**流行している変異株が頻繁に変わる**ので、**その重症化の変化もモニタリング**する必要がある。
- 【目的】 そこで、新型コロナウイルス性肺炎で中等症Ⅱ以上となった入院患者さんや新型コロナウイルスによって脳炎脳症や心筋炎になった入院患者さんの疫学情報を、個人が特定できない範囲で県内病院から提供していただき、**コロナが重症化する年代、ワクチン接種状況、日常生活自立状況、基礎疾患等を集計・分析し、医療機関への情報提供や県民への注意喚起・高齢者のコロナワクチン接種勧奨等に役立てる。**
- 【方法】 協力していただける県内病院が、**新型コロナウイルス性肺炎中等症Ⅱ以上の患者さんの年代・性別、接種回数等、日常生活自立度（パフォーマンス・ステータス）、基礎疾患等**をGoogle・フォームに入力し、県が定期的（夏冬の流行期の前半時点と終了時点）に集計・分析し、医療機関への情報提供及び県民への公表を行う。

新型コロナウイルス感染症の肺炎の重症度分類（医療従事者が判断）

重症度	症状	パルスオキシメータの数值 (SpO2)
軽症	呼吸器症状なし または 咳のみで呼吸困難なし いずれの場合も肺炎所見を認めない	96%以上
中等症Ⅰ	肺炎所見あり 呼吸困難あり	93.1%~ 95.9%
中等症Ⅱ	肺炎所見あり 酸素投与必要	93%以下
重症	人工呼吸器が必要 ICUに入室	

調査対象
他は脳炎脳症、心筋炎

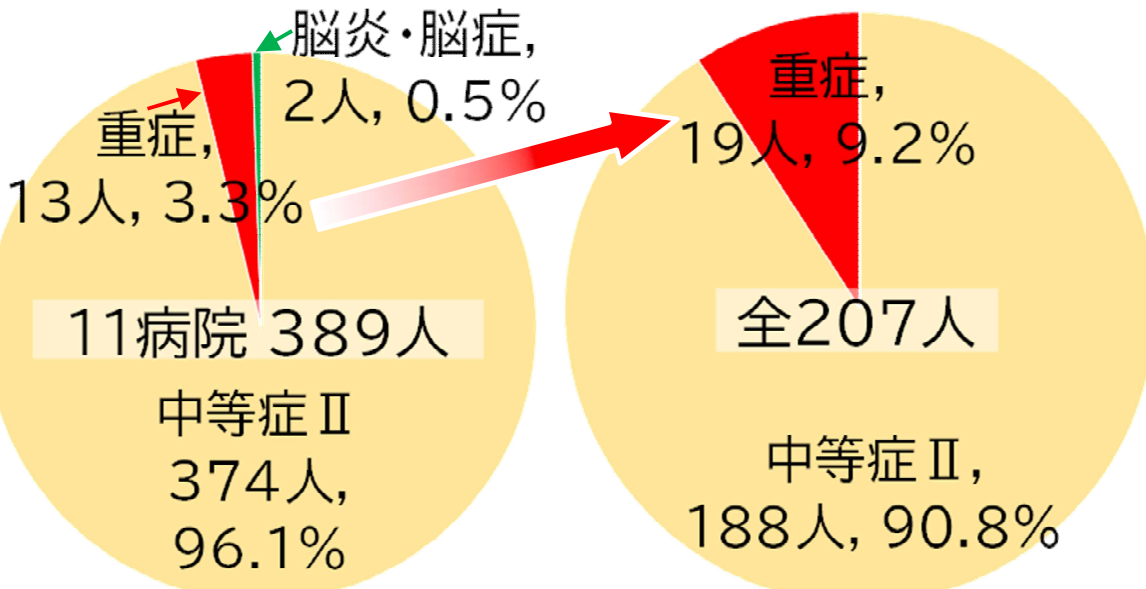
(新型コロナウイルス感染症(COVID-19)診療の手引き・第10.1版 より)

静岡県 コロナ肺炎中等症Ⅱ以上調査 結果 (2023.10/30~24.5/5) ① 中Ⅱ/重・週

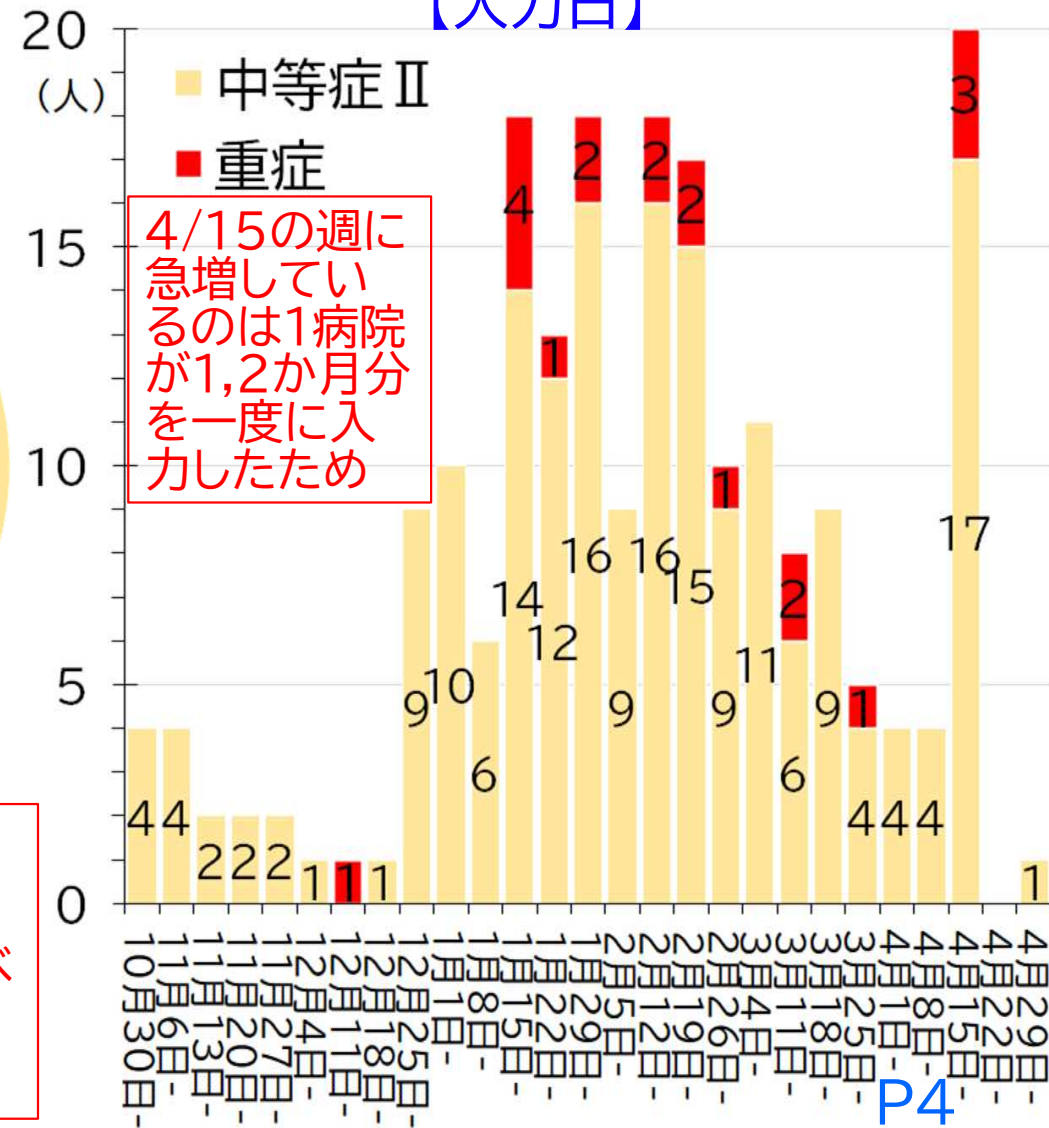
【中等症Ⅱと重症等の割合】

2023.5/15~10/29
【第9波】

2023.10/30~24.5/5
【今回】



【入力日】

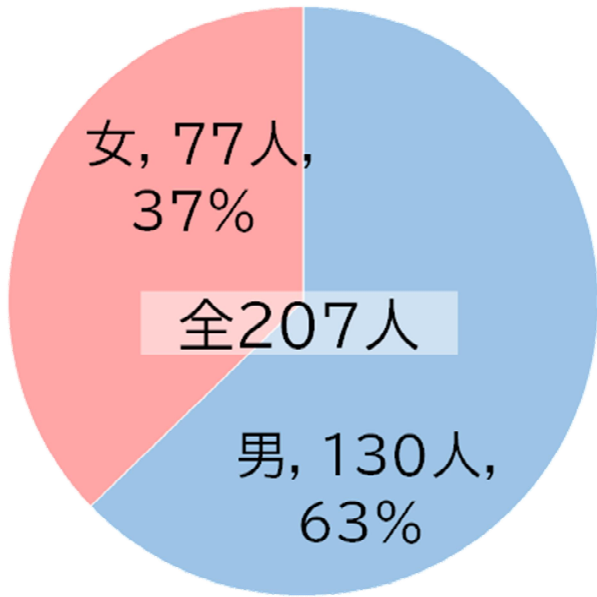


4/15の週に急増しているのは1病院が1,2か月分を一度に入力したため

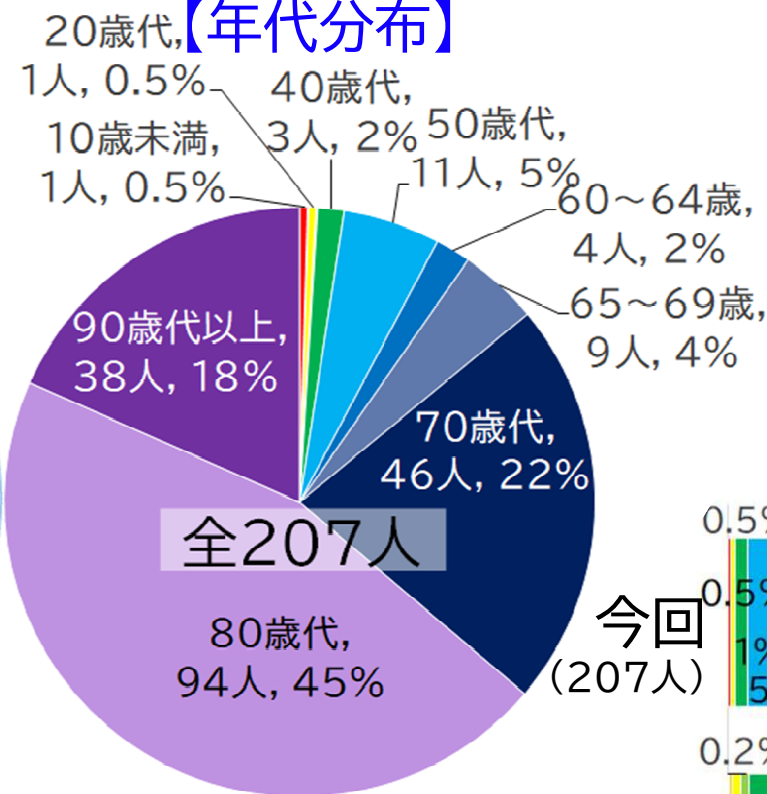
- 今回の期間中に入力していただいたのは県内11病院
- 中等症Ⅱが90.8%と大半を占めたが、2023年夏の第9波時に今回と同一の県内11病院からの報告と比べると重症の割合が約6ポイント増加(3.3%→9.2%)
- 今回、県内で流行した変異株は、BA.2.86系統が主流

静岡県 コロナ肺炎中等症Ⅱ以上調査 結果 ② 性・年代

【性別】

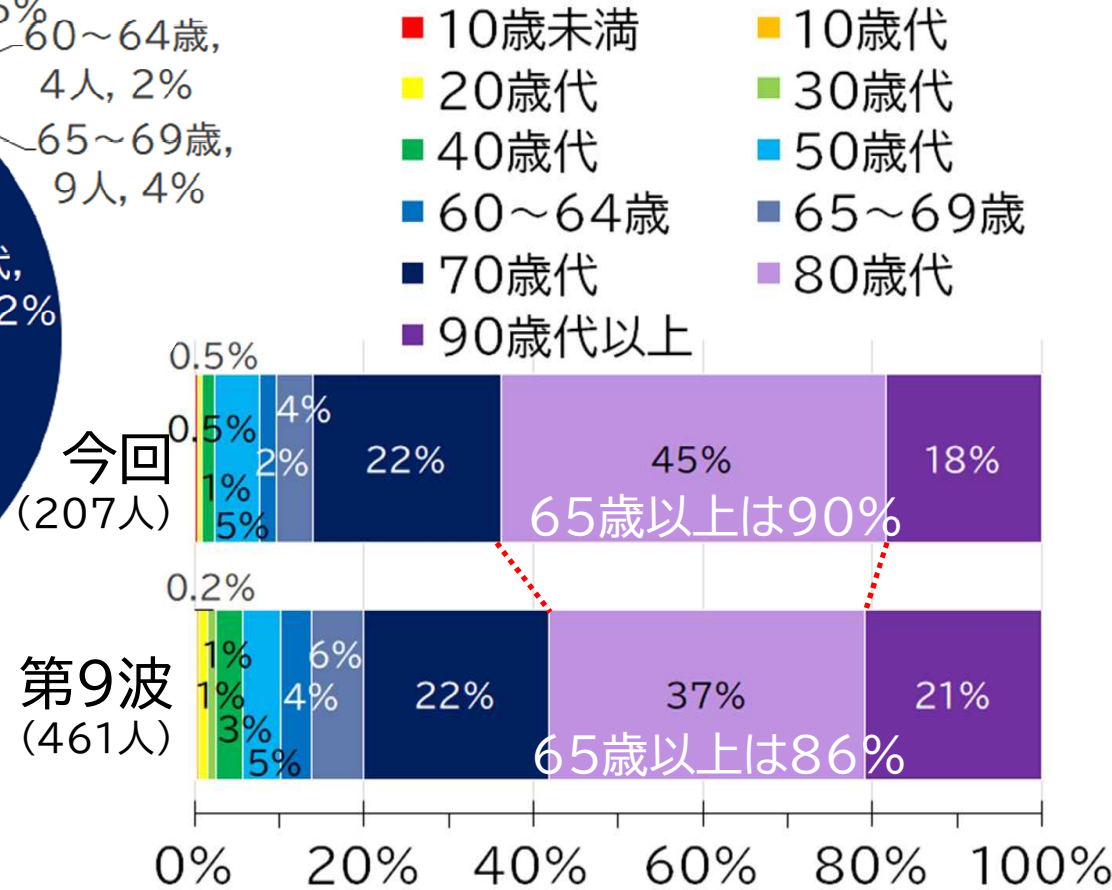


【年代分布】



【年代分布の 第9波との比較】

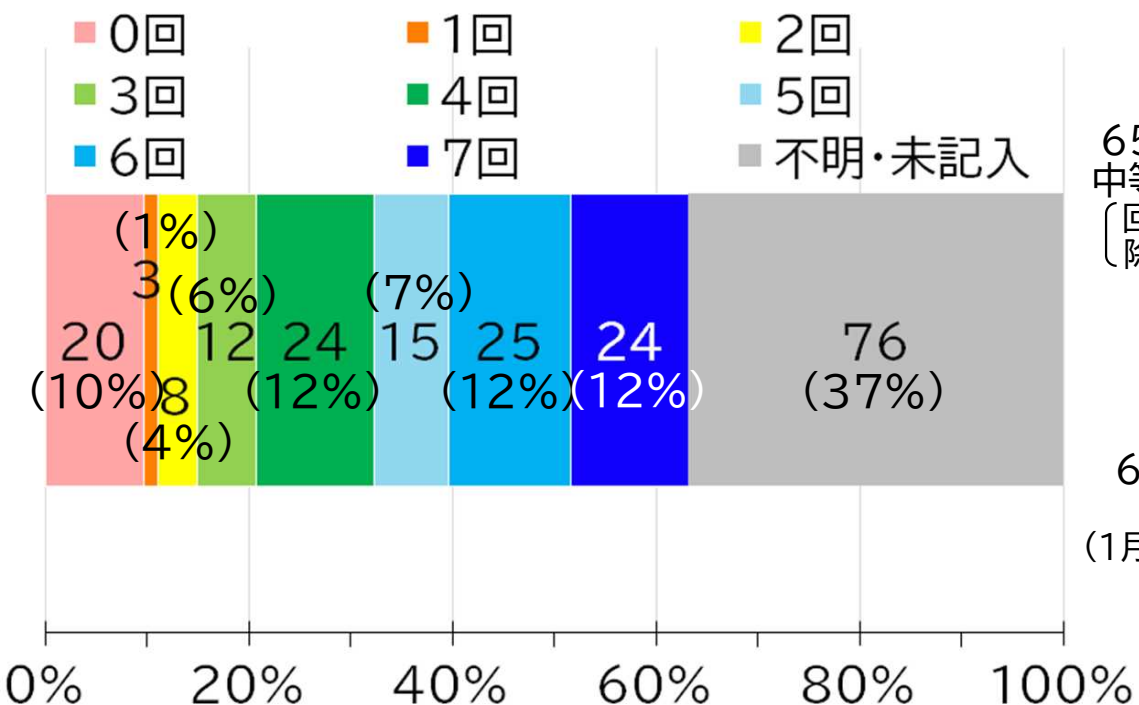
※2023.5/15~10/29



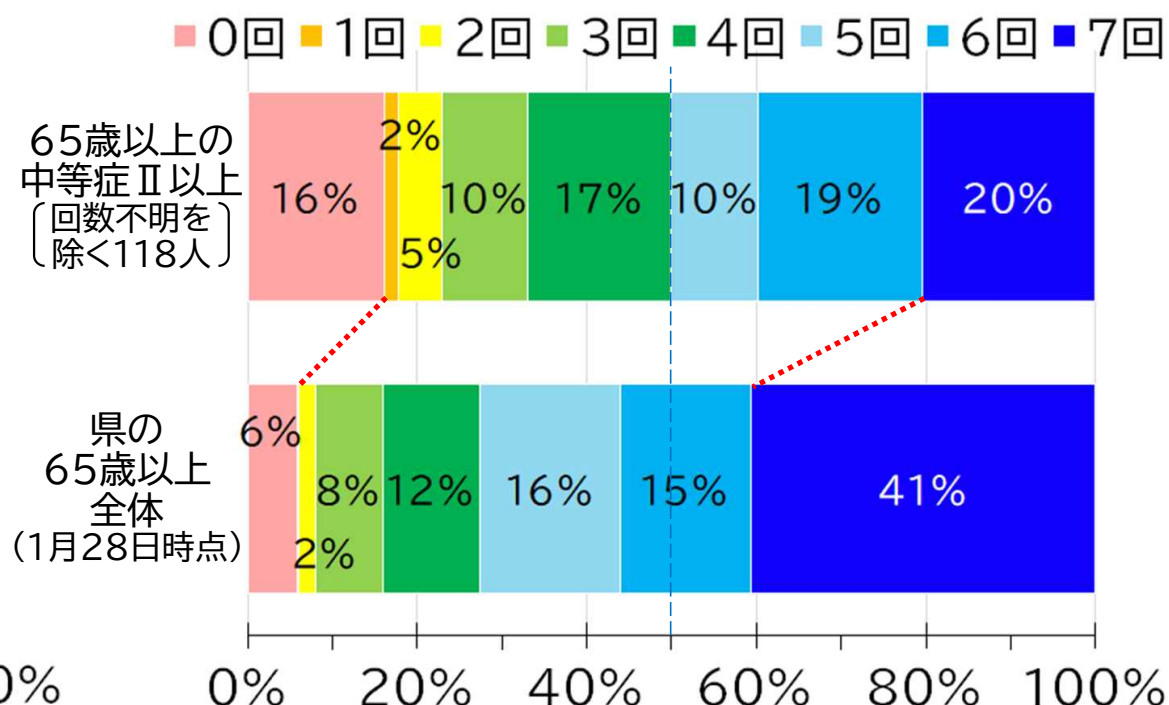
- 男性が約6割を占めた(女性:男性≒1:1.7)
- 80歳代が最多で45%を占めた
- 65歳以上が187人で、90%を占めた
- 第9波と比べ80歳代が8%増加(37%→45%)

静岡県 コロナ肺炎中等症Ⅱ以上調査 結果 ③ 接種回数

【全年代の接種回数】



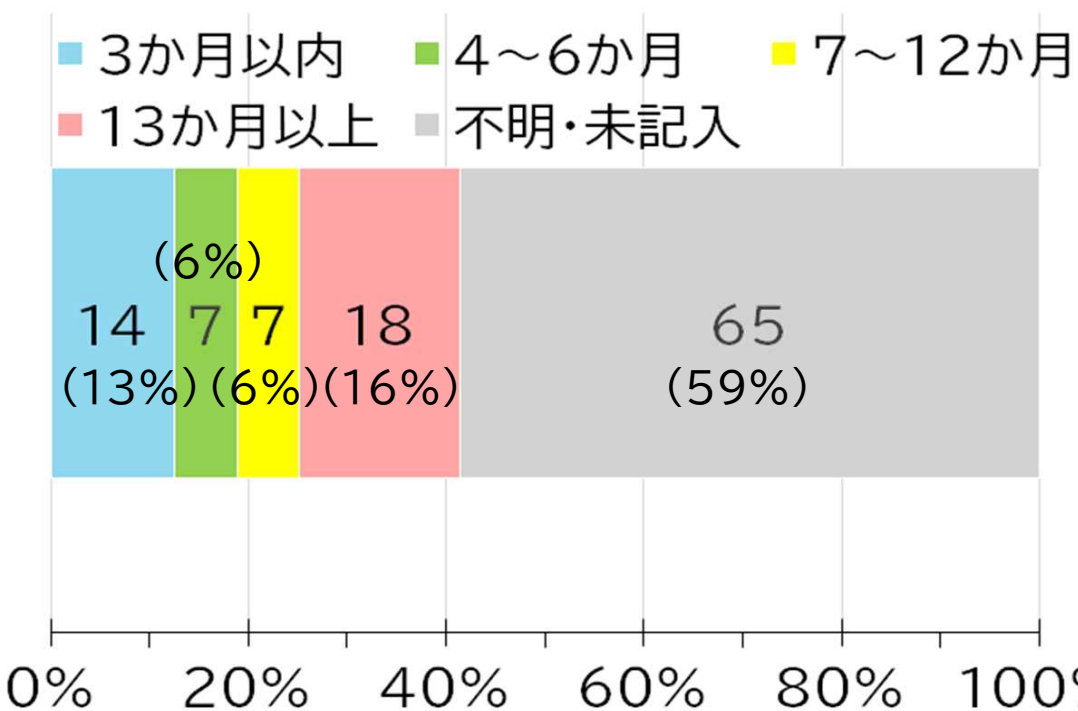
【65歳以上での県民全体との比較】



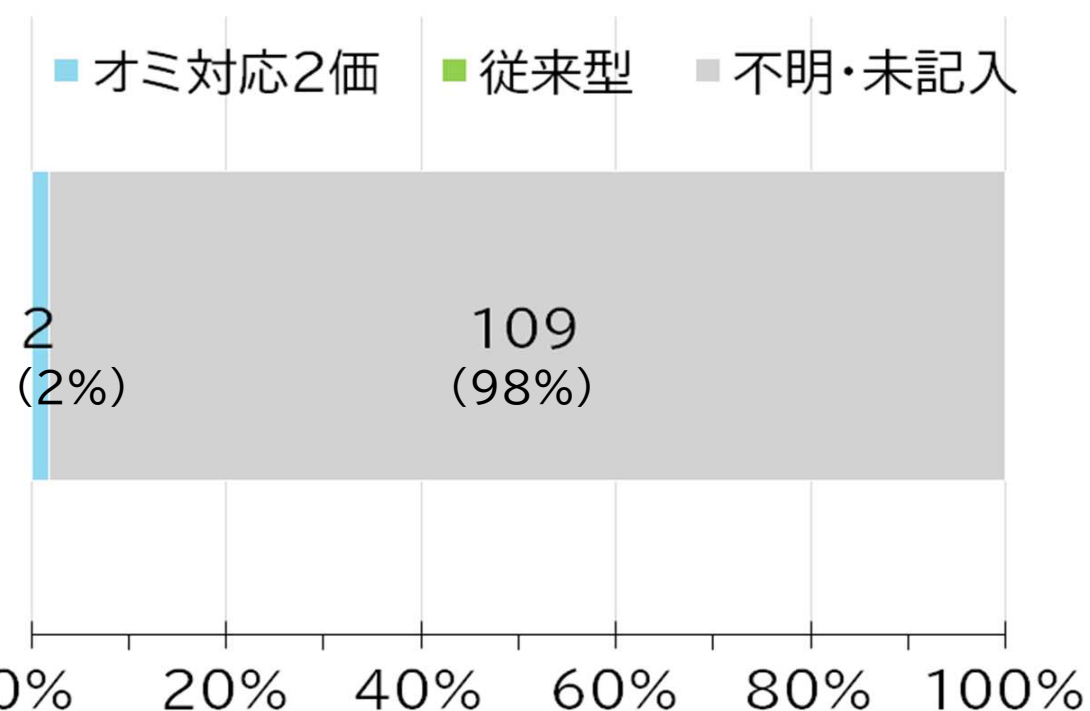
- 中等症Ⅱ以上の人全体では、接種回数は4,6,7回が多く各12%
- 65歳以上の中等症Ⅱ以上の人で接種回数判明者は、県の65歳以上全体と比べて、未接種者(0回接種)が多く(16%対6%)、7回接種者が少ない(20%対41%)
- 接種回数中央値は、65歳以上の中等症Ⅱ以上的人是は4.5回、県の65歳以上全体は6回

静岡県 コロナ肺炎中等症Ⅱ以上調査 結果 ④ 最終接種時期・種類

【最終接種からの期間】



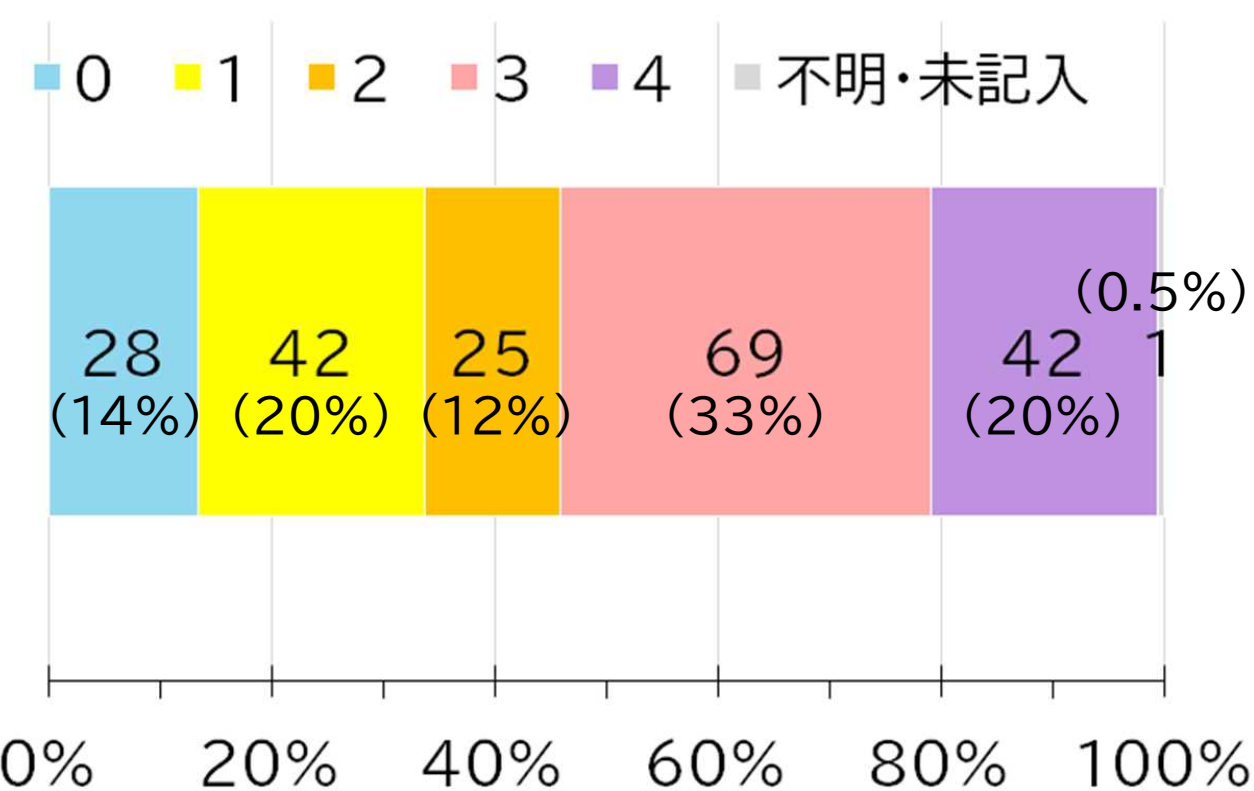
【最終接種ワクチンの種類】



- 不明が非常に多いが、判明している人では、最終接種からの期間は13か月以上が多かった

静岡県 コロナ肺炎中等症Ⅱ以上調査 結果 ⑤ 日常生活自立度

【コロナ罹患前の日常生活自立度(パフォーマンス・ステータス;PS)】

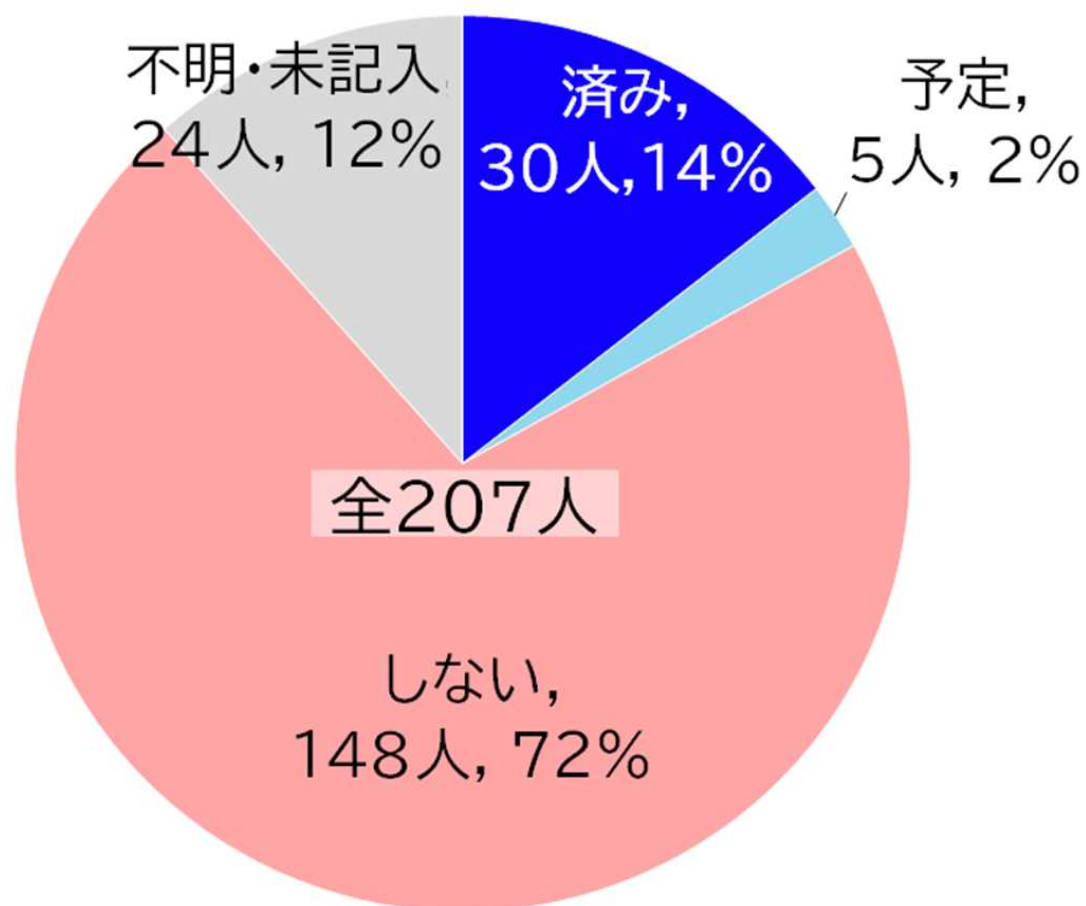


- 0;まったく問題なく活動でき、日常生活が制限なく行える。
- 1;肉体的に激しい活動は制限されるが、歩行可能で、軽作業や座っての作業は行うことができる。例:軽い家事、事務作業
- 2;歩行可能で、自分の身のまわりのことはすべて可能だが、作業はできない。日中の50%以上はベッド外で過ごす。
- 3;限られた自分の身のまわりのことしかできない。日中の50%以上をベッドか椅子で過ごす。
- 4;まったく動けない。自分の身のまわりのことはまったくできない。完全にベッドか椅子で過ごす。

• 何らかの日常生活の活動制限(PS 1以上)がある人が、約9割を占めた

静岡県 コロナ肺炎中等症Ⅱ以上調査 結果 ⑥ ゲノム解析検体提出

【鼻咽頭拭い液等検体のゲノム解析用提出】



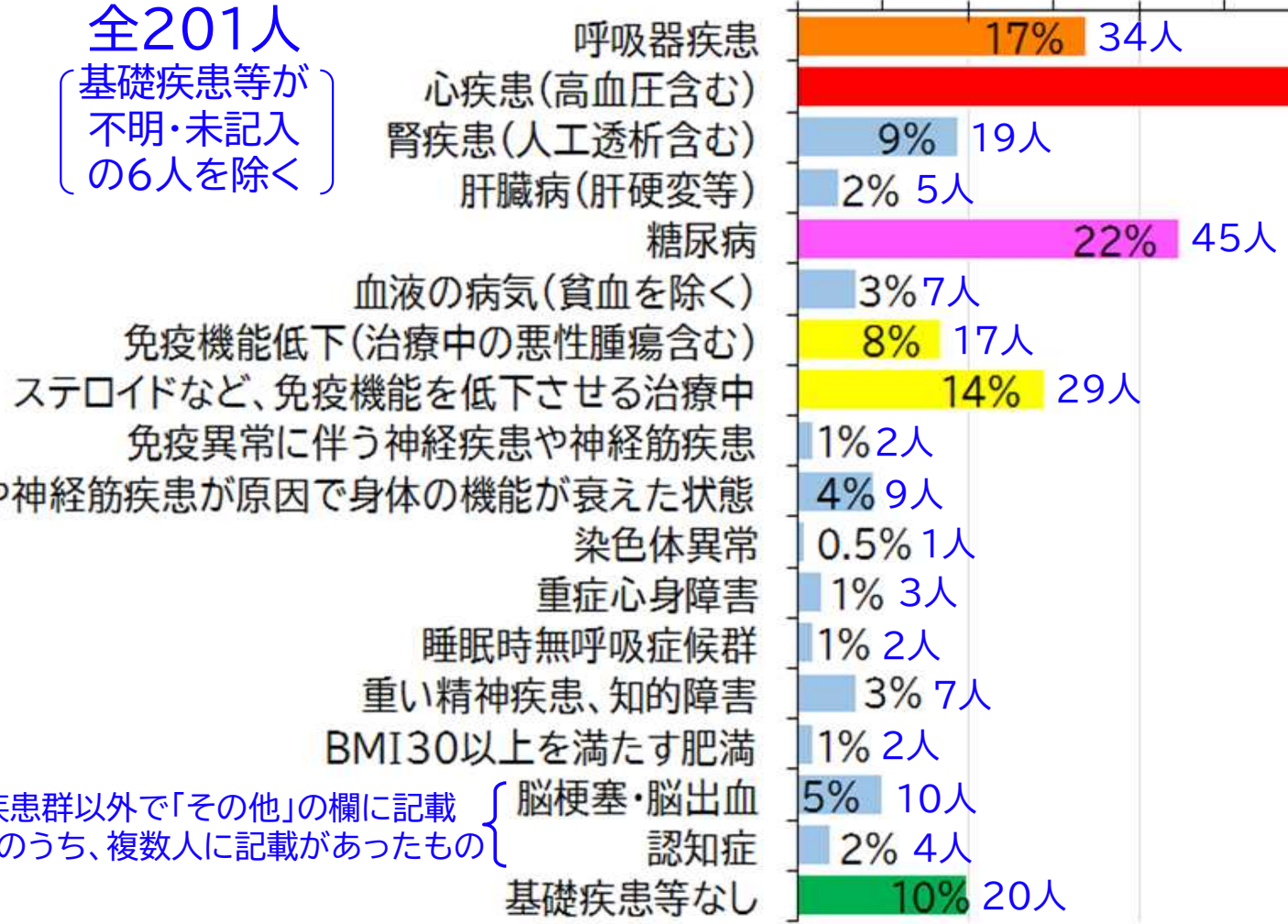
- 予定も含めてゲノム解析への検体提出は、約16%にとどまっている

静岡県 コロナ肺炎中等症Ⅱ以上調査 結果 ⑦ 基礎疾患等重症化リスクの状況

【ワクチン接種が勧奨される基礎疾患等、重症化リスクの状況(複数回答)】

全201人
 (基礎疾患等が
 不明・未記入
 の6人を除く)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%

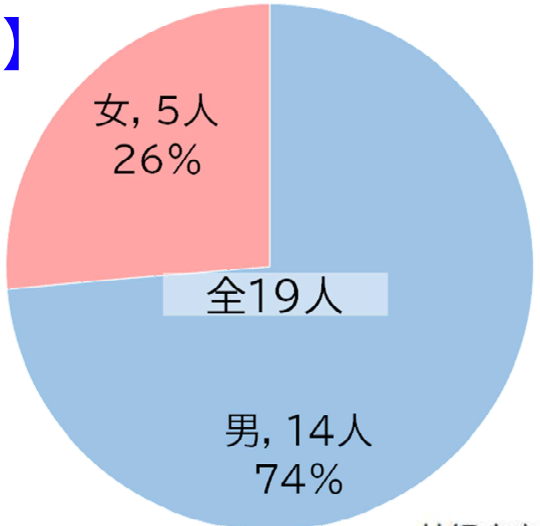


- 上位3疾患は、心疾患 58% > 糖尿病 22% > 呼吸器疾患 17%
- 次いで、免疫を低下させる治療中 14%、腎疾患 9%、治療中のがんを含む免疫機能低下 8%
- 「基礎疾患等なし」20人のうち19人(95%)は65歳以上で、接種回数判明している12人中4人(33%)は未接種

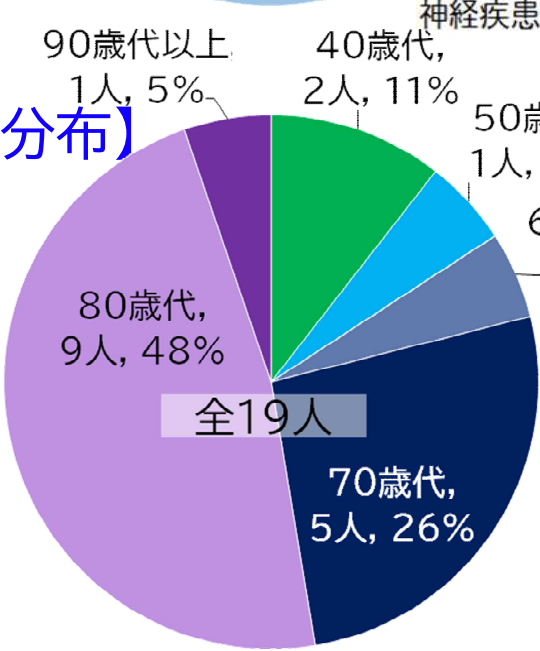
上記15の疾患群以外で「その他」の欄に記載された疾患のうち、複数人に記載があったもの

静岡県 コロナ肺炎中等症Ⅱ以上調査 結果 ②'⑦' 重症者の性・年代・基礎疾患

【性別】

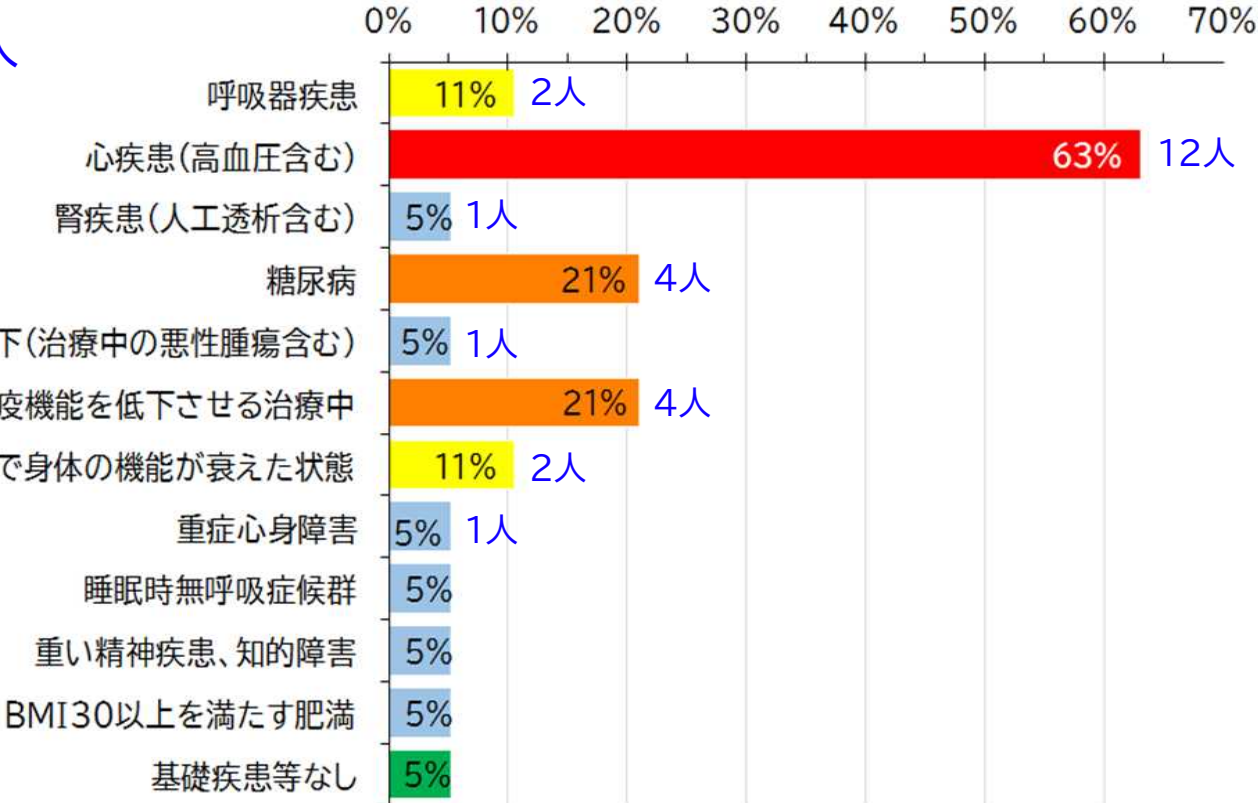


【年代分布】



【ワクチン接種が勧奨される基礎疾患等の状況(複数回答)】

全19人



- 男性が約4分の3を占めた(女性:男性≒1:2.8)
- 80歳代が最多で約半数を占め、65歳以上が16人で、84%を占めた
- 上位3疾患は、心疾患63%>糖尿病21%=免疫機能低下治療21%
- 図は無いが、ワクチン接種回数の中央値は4回、PSの中央値は1 P11

静岡県 コロナ肺炎中等症Ⅱ以上調査結果 ⑧ 65歳未満で接種回数判明13人の状況

年代 \ 接種回数	0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回	
10歳代以下			【略号等】 男 女 PS0~4; パフォーマンス・ステータス0~4(数字大ほど自立低) 心; 心疾患(高血圧含む)、糖; 糖尿病、肥; BMI 30以上の肥満、肝; 肝臓病(肝硬変等) 神; 神経筋疾患、免; 免疫機能低下状態、精; 重い精神疾患、睡; 睡眠時無呼吸症候群 血; 血液疾患(貧血を除く)、重; 重症心身障害、なし; 基礎疾患等なし					
20歳代								
30歳代								
40歳代			PS0 心, 免, 肥					
50歳代	PS4 血, 免		PS2 精		PS4 心, 糖, 重 PS2 心	PS3 心 PS0 呼	PS1 他	PS0 呼, 心, 免
60歳代 前半		PS0 心			PS3 心, 糖, 精		PS4 免, 重	

- 65歳未満で接種回数が判明している13人のうち、4人(31%)が2回以下の接種回数だった
- 65歳未満の全20人での多い基礎疾患は、心疾患7人(35%)、免疫低下状態6人(30%)、呼吸器疾患4人(20%)

静岡県 コロナ肺炎中等症Ⅱ以上調査 第7報 結果のまとめ

1. 新型コロナウイルス性肺炎で中等症Ⅱ以上の入院患者さんの年代、ワクチン接種状況、基礎疾患等に変化がないか、5類移行後も追跡するため、県内病院の協力を得て、患者個人が特定されない疫学情報を随時収集し、定期的に集計・分析し、医療機関へ還元、県民へ公表する。
2. 今回の収集期間は2023年10月30日から2024年5月5日の27週間で、11病院から207人の中等症Ⅱ以上の入院患者さんの情報提供に協力いただいた。なお、この期間の県内の変異株はBA.2.86系統が主流であることが分かっている。
3. 207人中、中等症Ⅱ188人(90.8%)、重症19人(9.2%)であり、2023年夏の第9波(5月15日～10月29日)と比べて、中等症Ⅱ以上の患者に占める重症者の割合が3.3%から9.2%へ約6ポイント増加したが、あくまでも報告例での重症者割合であり、コロナによる肺炎患者の中で重症者割合が真に増加しているかは判断できない。
4. 男性が130人で約6割を占めた。年代は80歳代が最多の94人で45%であり、65歳以上が187人で90%を占め、第9波の年代分布と比べて80歳代の割合が37%から45%へ8ポイント増加した。
5. ワクチン接種状況では、65歳以上の中等症Ⅱ以上の人は、県の65歳以上全体と比べて、未接種者が多く(16%対6%)、7回接種者が少なく(20%対41%)、接種回数中央値も少なかった(4.5回対6回)。
6. コロナ罹患前の日常生活自立度は、何らかの活動制限のある人(パフォーマンス・ステータス1以上の人)が、約9割を占めた。
7. 重症化リスクが懸念され、ワクチン接種勧奨とされた基礎疾患等は、20人(10%)を除いて有しており、上位の疾患は、心疾患(高血圧を含む)58%、糖尿病22%、呼吸器疾患17%であった。がんなどの疾患やステロイド等の治療薬による免疫低下状態も22%を占めた。
8. 重症者19人については、男性が約4分の3を占め、80歳代が最多の9人で約半数を占め、65歳以上が16人で84%であった。上位の基礎疾患は、心疾患63%、糖尿病21%、免疫機能を低下させる治療21%であった。
9. 5類感染症移行後の新型コロナウイルス感染症も、中等症Ⅱ以上となる人の大部分は、基礎疾患があり日常生活の活動制限がある高齢者で、ワクチン接種回数の少ない人の割合が多い傾向にあるため、基礎疾患のある高齢者に対する接種の重要性は変わらないと考えられた。
10. 65歳未満で中等症Ⅱ以上の肺炎になった人で、ワクチン接種回数が判明している13人中4人は接種回数が2回以下であった。また、65歳未満の基礎疾患等の上位は、心疾患、免疫低下状態、呼吸器疾患であった。